

第 1 回ライフイノベーション戦略協議懇談会（H25 年 1 月 17 日）
質問及び回答

< 質問 1 >

議題 2 子どもの健康に係る施策について（「健やか親子 2 1」関連）

成宮委員より

- ・ 厚生労働省より「健やか親子 2 1」における思春期の自殺の防止を含む子どもの心の問題への取組について説明があったが、学校でいじめや体罰が起きている中で、心の傷がどういう影響を子どもに及ぼすか、それがいかに脳に刻まれるかについて、教員の理解が足りないと感じている。教員の脳科学リテラシーを上げるために、文部科学省はどういったことに取り組みられているか。（または予定しているか。）また、文部科学省と厚生労働省はどのように連携して取り組んでいるか。

（回答）

災害や事件・事故に遭遇した子どもが心に大きな傷を受けると、成長や発達に大きな障害（心的外傷後ストレス障害（PTSD）等）となることがあるため、子どもの心のケアは大変重要なことと認識している。

そのため、文部科学省では、教職員向けの指導参考資料の配布や心のケアシンポジウムの開催等により、教員の心のケアに対する理解増進を図っている。

学校において教員が子どもと接する際に大切なことは、子どもの心の問題を早期発見したり、医療機関との連携を強化したりすることであり、文部科学省としても、管理職や養護教諭、担任教諭を対象とした研修会等でこの点を中心に指導している。

なお、厚生労働省には、「非常災害時の子どもの心のケアに関する調査協力者会議」の委員として参加していただいたり、シンポジウムにおける講師やシンポジストを推薦していただくなど、適宜連携を行っている。

< 質問 2 >

議題 4 その他（平成24年度補正予算報告関連）

庄田副座長より

- ・ 文部科学省の施策について、資料5のp.3「成長による富の創出」の事業についても、ライフイノベーションに関連する施策として明示すべきではないか。

（回答）

各省の科学技術関係経費の中には、幅広い分野の科学技術の発展に貢献する中で、ライフイノベーションに関連する施策がある。

例えば、文部科学省においては、幅広いイノベーション創出の基盤を支える「光・量子ビーム施設の整備・高度化」や、大学等の優れた研究成果の事業化開発を支援するための「産学官による実用化促進のための研究開発支援（JSTに対する出資事業）」などが、ライフイノベーションにも関連する施策として挙げられる。

< 質問 3 >

議題 4 その他（平成24年度補正予算報告関連）

庄田副座長より

- ・ 再生医療に関し、各府省で実施する事業の連関についてどのようになっているのか。それぞれがどの部分をどう連携してやっているのか説明頂きたい。

（回答）

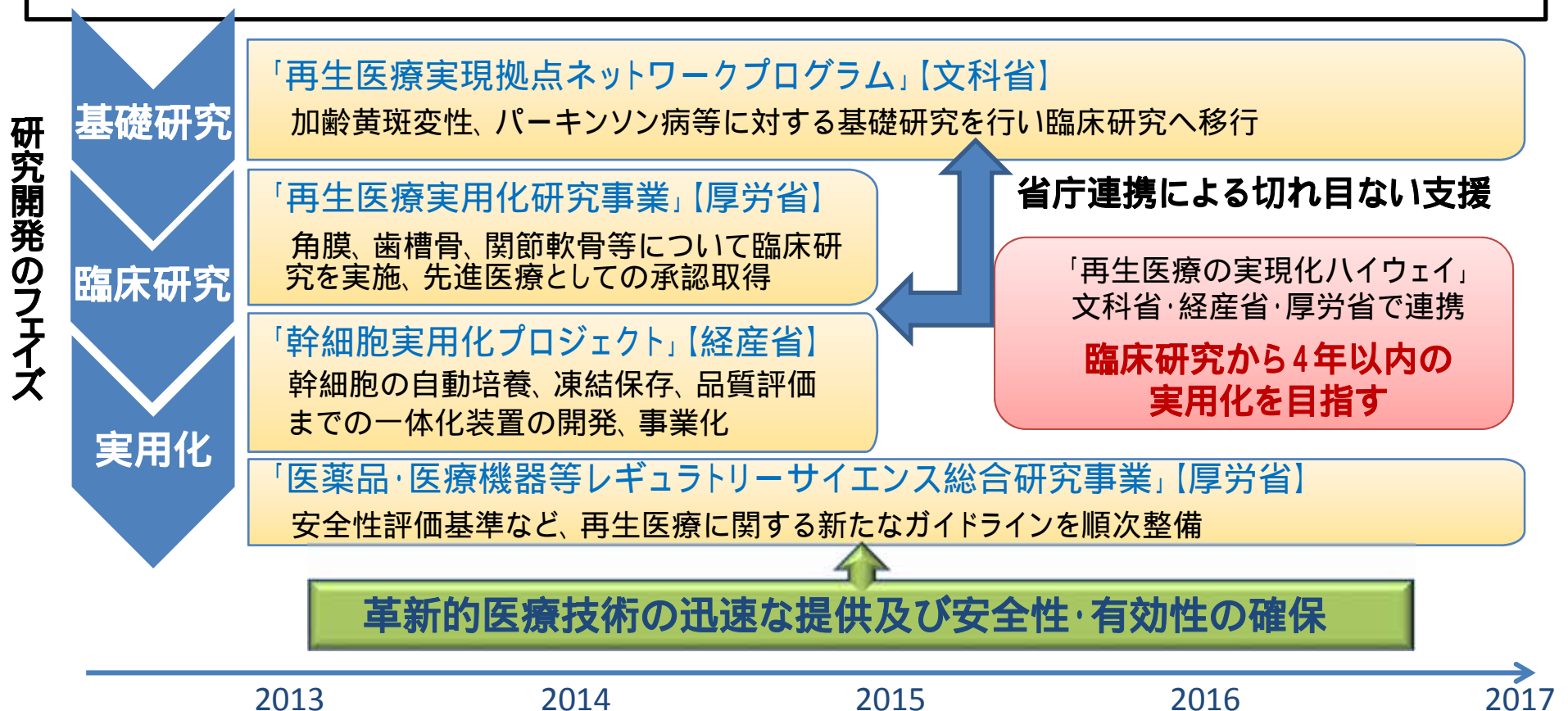
別紙資料を参照

平成25年度アクションプラン対象施策の具体例
「ライフイノベーション(再生医療関係)」

身体・臓器機能の代替・補完(再生医療)等

文科省、経産省、厚労省が連携し、基礎研究→臨床研究→実用化へ切れ目なく一体推進
加齢黄斑変性(2013)、パーキンソン病等(2017)を対象とした基礎研究を完了し、
臨床研究に移行する。

角膜(2012)、歯槽骨、関節軟骨(2013)の臨床研究を完了し、実用化する
安全性評価等に関する評価基準やガイドラインを2017年度までに順次整備する



< 関連発言内容 >

議題 2 関連

・成宮委員

ご説明いただいた中で十代の自殺についてお聞きしたいと思います。十代の自殺の背景として大津にあったようないじめの問題とか、今回大阪で起こっているような体罰の問題があると理解しております。このようなことが実際学校の中で起こっている中で心の傷がどういう影響を子どもに及ぼすか、それがいかに脳に刻まれるかということについて教員に非常に無理解があると思います。それについては厚労省だけでなしに文科省と一緒にそういうふうなことをやっていたかないといけないと思います。

文科省には初等教育局にいじめ対策室等があると理解しています。このような厚労省の施策が文科省の体制とどのように共同にやられているか。あるいは共同にやろうとされているかについてお聞きしたいと思います。

・厚生労働省桑島課長

厚労省だけではできないものもたくさん入ってございます。そういう意味では委員ご指摘のとおり文科省とよく連携をしてということで、実は私どもの会議の中にもオブザーバーという形でございますけれども、文科省にも入っていただいているところでございます。

(中略)

・成宮委員

このイノベーションというのを例えば技術のイノベーションだけ考えるのではなくて社会のイノベーションというものを考えないといけないと思います。ライフイノベーションというのはライフサイエンスの進歩をもって技術のイノベーションもするけれども、社会のイノベーションもしなくてはいけない。そうするとサイエンスがどれぐらい進んだかということをもって、それを社会全体に普及しなければいけないと思います。

先ほど私が申し上げたのは、学校の先生たちがライフサイエンスの進歩についていけるかというついでについていけない。脳科学の進歩についていけるかというと全然ついていけない。だから旧態依然たるもので、社会でこれだけストレスがあるときは、同じような記憶をしているからいろいろな問題が起こってくるのではないか。

厚労省としては実際脳科学ということがある程度進んで、心の病気ということを考えているようになってるので、そういうリテラシーを広めるという努力が必要である。それは厚労省だけではできないので文科省も含めてそういうふうな脳科学のリテラシーを含めて日本全体で社会の水準を上げていくことに努力していただきたいと思います。

議題 4 関連

・庄田副座長

1つは文部科学省の方が4ページをご説明されましたが、3ページの「成長による富

の創出」これは決してライフイノベーションだけではないんですけれども、当然関連する施策であろうと思いますので、黄色を塗られるときに、やはり当然3ページも黄色ではないかというのが私は1つ思います。

もう1点は、再生医療に関して、文部科学省、厚生労働省で、それぞれ事業をされるわけですが、これらの連関がどういうふうになっているのかという点についてたびたびこの戦略協議会でご指摘している部分ですので、やはりそれぞれがどの部分をどう連携されてやっておられるのか、そういうご説明をいただいたほうが戦略協議会としては必要なことではないかと思います。